

紅梅會會報



第 93 号



会長あいさつ

49 回生 藤村 龍子

猛暑の時節を通りすぎてさわやかな風を感じる日々となりました。皆様、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。平成 22 年度の総会は、グランドプリンスホテル赤坂において開催されました。紀伊徳川屋敷跡地に建立された世紀の殿堂は今年で姿を消すという事情を知ってか、遠方から同窓生 130 余名の出席。総会においては慶應義塾創立 150 周年の余韻と未来を見据えたご意見をいただきました。

今後の紅梅会活動は、主に 1) 広報活動の強化、2) 会員サービスの充実、3) 終身会費納入者の増加促進等、前会長の課題を継承し、努力してまいりたいと思いますので皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

◆ 広報活動の強化と歴史の省察・内容の充実

紅梅会会員の構成は、慶應義塾の看護教育が深化発展してきた模式図を見るようであります。

現在、看護系の大学においては「新たな看護学基礎カリキュラム」と学士課程における看護師・保健師・助産師に共通する看護学の基礎となる教育内容を体系的に教授する“モデル・コア・カリキュラム”の導入の検討が続いています。一方、国民のヘルスニーズの充足と安心と安全の医療を保証するための卒後教育への制度化（2010年4月施行）、看護師の役割拡大と裁量権を巡るの検討が進められています。厚生労働省の開催による「チーム医療の推進に関する検討会」においては、看護師の能力を最大限に発揮し得る様に、実施可能な行為の範囲に関する検討が、包括的指示に基づく医行為を巡って論議されているのです。こうした時代において、日本看護歴史学会第 24 回学術集会（会長 三上れつ 看護医療学部教授）が、藤沢キャンパスで 9 月 19・20 日に開催されます。特別企画である、①北里柴三郎の看護婦教育、②初代看護婦監督鈴置けいの貢献、③大森文子の看護協会活動と I C N 開催、④慶應義塾大学病院における臨床実習教育と卒後教育、等の交流セッションへの参加は、紅梅会の先輩諸氏の足跡に真摯な思いで敬意を払い、これからの同窓会活動の内容充実に関わるものと感じます。

◆ 会員サービスへの充実と紅梅会へコミットメント

現在、会員は 7,600 人に達している状況です。慶應看護の 92 年の歴史の中に誰もが生き生きと活動し、人々の和の中で勇気や希望を分かち合ってきたと思います。世代が変化し価値の多様化の時代に入りました。

会員のニーズや希求も変化してきます。しかし、誰もが紅梅会の存続を求めていると思います。

紅梅会事業の性質も変革するのが必然と思われる。慶應義塾の創始者・福澤諭吉先生の“気品の泉源 知徳の模範”という名言がこうしたときに、語りかけると思います。紅梅会に所属することで、看護という専門職の誇りと気概を培う集団であることの意識、次の世代にとっては魅力ある学術集団として組織化、発展できる可能性を会員サービスのために、相互に協働してゆきたいと思います。

秋号の主な内容

- ◆ 第 67 回紅梅会総会の報告 2 - 4 ページ
- ◆ 慶應義塾大学病院看護部長退任のあいさつ 5 ページ
- ◆ 受賞 石橋湛山新人賞 水口由美さん 5 ページ
- ◆ 世代をつなぐ「Link age」
 - 特集 慶應看護のあゆみ（第 4 回目） 6 - 7 ページ
 - 各分野のスペシャリスト 8 - 9 ページ
 - 新入会員の紹介 10 ページ

紅梅会総会を終えて

準備委員長 進二 6回生 高橋 豊子

本年5月9日に開催しました『第67回紅梅会総会』の準備委員活動について報告します。会場は昨年度と同様グランドプリンスホテル赤坂別館ロイヤルホールでした。

準備委員会では、受付方法・食事メニュー・プログラム進行などについて、ホテルと打ち合わせをしながら検討しました。今回より受付方法を会計の有無に分けました。また、以前より皆様をお願いしている当日会費および年会費（終身会員以外の方）の事前振込みにご協力をいただいたことで、幾分受け付けの流れがスムーズでした。出席者名簿は例年同様、事務局の協力で作成。名札・テーブルネームと新たに拡大版席次表を掲示し、会場へご案内しました。食事はゆっくり話ができるよう、役委員会で会席弁当を選択しました。プログラムの時間配分は、挨拶や報告事項がスムーズに進行できるよう配慮しました。そして「あなたのメモリー大丈夫ですか？」と題して、慶應義塾大学病院メモリークリニックの伊東大介先生にご講演をしていただきました。皆様から良いお話が聞けたと好評でした。昨年より多い131名の参加者があり、食後には会員の方から『からだであうたう四季の歌』のご披露もあり、楽しいひと時を過ごせたと思います。

今後の総会をよりよくするためのアンケートにご協力いただきありがとうございました。会場・食事・催しについてのご意見を今後の参考にさせていただきます。

来年の会場はまた役委員会で検討し、次回会報でお知らせ致します。皆様どうぞお元気で。また総会でお会いしましょう。



慶應義塾大学病院現状報告

78回生 鎮目 美代子

- 2009年10月より新執行部スタート
病院長 武田 純三（麻酔科学教授）（2009年8月1日就任）
副病院長 高橋 孝雄（小児科学教授） 天谷 雅行（皮膚科学教授） 岡本真一郎（血液内科学教授）
・看護部長室（2010年5月）
看護部長 鎮目美代子（78回生）
看護部次長（人事担当） 松田美紀子 看護部次長（教育担当） 細井 恵子（79回生）
看護部次長（業務担当） 安藤 朋子 看護情報担当 渡邊 珠子（87回生）
- 慶應義塾創立150年記念事業 病院3号館建設の進捗状況
・病院3号館北館（地上6階地下1階）：臨床研究棟Ⅱ 2011年1月竣工予定
・病院3号館南館（地上6階）：予防医療センター、病棟等 2011年1月着工予定
- 看護師採用状況 新採用者数135名（うち男性13名） 新卒者103名+経験者32名（看護医療学部卒60名）
- 新事業の取り組み
文部科学省大学教育改革推進事業「看護キャリアシステム構築」プラン
・概要：大学病院と看護医療学部が連携し、高度先進医療に対応できる「ジェネラリスト・ナース」の養成を効率的に行うための教育体制を開発・運営し、大学病院と学部の人材の有効な活用を促進するシステムを構築する。
・事業計画期間：5年間（平成21年～25年） 事業規模：補助金基準額2500万円/年

看護医療学部現状報告

短3回生 高田 幸江

2009年度の卒業生（6回生）は88名で、8割が看護師、助産師、4名が保健師として就職し、4名が大学院に進学しました。

4月には110名（第2学年学士編入生5名を含む）の新入生を迎えました。2年生は12項目の基礎看護技術を課外時間に練習しています。3年生は、専門科目を学ぶ楽しさを感じ張り切って学習し、臨地実習に備えています。4年生は、実習、就職活動、国家試験など学生生活最後の時間を精力的に活動しています。

2009年度の青田与志子記念教育研究奨励基金の助成を受けた学生は81名（院生5名を含む）で、海外の各国で、医療・看護・福祉の体験学習をしました。

また2009年から看護医療学部と慶應義塾大学病院が連携した、高度先進医療に対応できる「ジェネラリスト・ナース」の養成に向けた教育体制の開発・運営プロジェクトを進めています。

看護医療学部は2000年4月に開設され、来年10年目を迎えます。これを記念して開設10周年記念式典を2011年5月11日（水）に、湘南藤沢キャンパスで開催する予定です。同窓会の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

紅梅会総会に参加して

初めての総会

短5回生 森 里香

紅梅会の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。私は慶應病院に約11年勤務させて頂き、長男を出産、1年の育児休暇を経て復職しましたところ、長男は体調を崩しやすく、私自身も体調を崩し、翌年退職を決意することになりました。当時お世話になりました皆様には、本当にご迷惑をおかけし、また同時に多くのアドバイスを頂き、この場を借りてお詫びとお礼の意を表させていただきます。

さて、退職後から慣れない事務の仕事を初体験することになり、また、長男も幼稚園生活となりました。環境が変化し、「医療者ではない自分」に随分戸惑いました。看護職時代には得意とさえ感じていたコミュニケーションでさえ、一般社会で多様な価値観の中に翻弄され、うまくとれずに落ち込むことも増えていました。そんな中、紅梅会会報で皆様のご活躍を拝見し、元気をもらえるようでした。

さらに今年は「母の日」に家族が息子たちを見てくれるというので、初めて総会に出席させて頂き、懐かしい方々にお会いできました。紅梅寮自治会、リーダー研修やアドバンス研修でお世話になった方々にお会いし、様々なことに一生懸命取り組んできたことが懐かしく思い出されました。

またぜひ総会に出席し、懐かしい皆様とお話したり、さらに新しい情報を得て、私自身のエネルギーに変えていければと思います。それでは、皆様にお会いできる日を楽しみにしています。



慶應看護の勉強の場として

準備委員 学2回生 森 理乃

私は、今回の総会の司会を務めさせていただきました。紅梅会役員の一員となり3年目、看護師・紅梅会会員として未熟な私に、司会という大役を務める機会を下された皆様には、感謝しております。

看護医療学部2回生の私にとって、紅梅会は長い歴史を持つ慶應看護を勉強する場となっています。総会準備の過程から、歴代の看護部長のお人柄や看護の精神などを学び、慶應看護の歴史の深さと変遷を知り、自分の看護を振り返るきっかけを得ています。総会準備は、日々の看護業務とは一味違った仕事内容ですが、来て下さる皆様がいかに満足していただくかを考え、緻密に計画する点では、少し看護に似ており、委員一同楽しく準備に励んでおります。また、総会当日には、お食事と共に、普段はお会いできない先輩方とお話でき、日々の看護実践の方法や看護師のあり方、さらには女性としての様々な生き方をご指導いただき、参加する度に自分の視野の広がりを感じます。

今回の総会では、神経内科の伊東先生の認知症についてのご講演が印象的でした。おいしいお食事と楽しいお酒を前にしての「適度な運動と飲酒とバランスのよい食事が認知症予防には推奨される」とのお話だったため、総会がさらに盛り上がりました。総会自体が認知機能の維持に効果的なものかもしれませんね。

総会閉会に際しては、参加者全員で四季の歌を手話を交えて歌い、会場が一つになりました。日本の看護が大きく変化している今こそ、温故知新、総会が慶應看護の歴史を振り返り、未来の看護のあり方を皆で考えていく場となっていたように思います。



紅梅会総会に参加して

編集委員 86回生 山口 伸子

「こんなにたくさんの方が出席されているのか〜」紅梅会総会に初めて参加した私は、出席人数の多さと活気に驚きました。グランドプリンスホテル赤坂の華やかで落ち着いた会場では、午前9時から紅梅会役員の方々が受付・会場準備などスムーズかつ積極的に活動されていました。そして、10時の開場時間になると和やかに出席者の方々がいらっしゃいました。華やかな会場に約130人ものメンバーが集い、とても楽しい会になりました。

第67回紅梅会総会の中で印象的だったことは、先輩方の生き生きとした表情です。私は21期22期の先輩方と同じテーブルで、おいしいお食事を食べながら、慶應での看護学生時代や、保健師や助産師として活躍された思い出など、素敵な話を聞かせていただくことができました。その優しい笑顔に勇気と元気をいただいたような気持ちになりました。「皆さんに会えるよう、なるべくこの紅梅会総会には出席するようにしているのよ。」という言葉には、この紅梅会総会を楽しみにしてくださっている気持ちと紅梅会役員への心遣いを感じました。以前は手作りだったという慶應ナースキャップの展示も興味深かったです。慶應独特の丸いキャップが看護師の誇りの象徴として多くの看護師に愛されていたことを感じました。紅梅会役員の方々のご努力下、楽しい中であっという間に過ぎた総会でした。今年・来年は編集委員として紅梅会の絆を伝えていく役割を果たしたいと感じています。

平成21年度 紅梅会収支決算報告

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで(単位:円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 増減 | 備考 |
|--------------------|-----------|-----------|-------------|------------|
| 1.事業活動収入 | | | | |
| 1)会費収入 | 3,800,000 | 3,329,000 | △ 471,000 | |
| (1)終身会費 | 3,000,000 | 2,580,000 | △ 420,000 | 30,000×86人 |
| (2)年会費 | 800,000 | 749,000 | △ 51,000 | 1,000×749人 |
| 2)総会参加費 | 1,275,000 | 885,000 | △ 390,000 | |
| 3)広告料収入 | 150,000 | 130,000 | △ 20,000 | |
| 4)寄付金収入 | 0 | 60,000 | 60,000 | |
| 5)雑収入 | 15,000 | 102,265 | 87,265 | |
| (1)預金受け取り利息 | 15,000 | 91,555 | 76,555 | |
| (2)その他 | 0 | 10,710 | 10,710 | |
| 6)慶應義塾創立150年記念事業収入 | 2,000,000 | 2,238,485 | 145,000 | |
| 事業活動収入計 | 7,240,000 | 6,744,750 | △ 495,250 | |
| 2.事業活動支出 | | | | |
| 1)会議費支出 | 2,763,000 | 2,147,823 | 615,177 | |
| (1)総会関連費 | 2,000,000 | 1,659,812 | 340,188 | |
| (2)役委員会関連費 | 763,000 | 488,011 | 274,989 | |
| ①役員会 | 120,000 | 123,522 | △ 3,522 | |
| ②役・委員会 | 300,000 | 141,412 | 158,588 | |
| ③編集委員会 | 120,000 | 71,830 | 48,170 | |
| ④準備委員会 | 60,000 | 24,417 | 35,583 | |
| ⑤研修委員会 | 60,000 | 43,005 | 16,995 | |
| ⑥推薦委員会 | 5,000 | 0 | 5,000 | |
| ⑦150年記念事業委員会 | 50,000 | 83,405 | △ 33,405 | |
| ⑧ホームページ | 48,000 | 420 | 47,580 | |
| 2)事業費支出 | 1,350,000 | 1,330,059 | 19,941 | |
| (1)研修会費 | 150,000 | 16,860 | 133,140 | |
| (2)会報作成発行費 | 1,200,000 | 1,313,199 | △ 113,199 | |
| 3)管理費支出 | 2,247,000 | 1,818,058 | 428,942 | |
| (1)人件費 | 1,047,000 | 930,380 | 116,620 | |
| (2)通信費 | 150,000 | 198,334 | △ 48,334 | |
| (3)消耗品等費 | 300,000 | 204,824 | 95,176 | |
| (4)ホームページ業務委託費 | 700,000 | 422,500 | 277,500 | |
| (5)雑費 | 50,000 | 62,020 | △ 12,020 | |
| 4)卒業記念品支出 | 110,000 | 88,000 | 22,000 | |
| 5)慶應義塾創立150年記念事業支出 | 670,000 | 2,420,954 | △ 1,750,954 | |
| (1)リカちゃん人形等管理料 | 670,000 | 420,954 | 249,046 | |
| (2)記念事業への寄付金 | 0 | 2,000,000 | △ 2,000,000 | |
| 6)予備費 | 100,000 | 0 | 100,000 | |
| 事業活動支出計 | 7,240,000 | 7,716,894 | △ 564,894 | |

平成22年度 収支予算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで(単位:円)

| 科目 | 予算額 | 前年(21年度) 予算額 | 増減 | 備考 |
|--------------------|-----------|--------------|-----------|----------------|
| 1.事業活動収入 | | | | |
| 1)会費収入 | 3,700,000 | 3,800,000 | △ 100,000 | |
| (1)終身会費 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 | 30,000×100人 |
| (2)年会費 | 700,000 | 800,000 | △ 100,000 | 1,000×700人 |
| 2)総会参加費 | 1,200,000 | 1,275,000 | △ 75,000 | |
| 3)広告料収入 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| 4)寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 5)雑収入 | 15,000 | 15,000 | 0 | |
| (1)預金受け取り利息 | 15,000 | 15,000 | 0 | |
| (2)その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 6)慶應義塾創立150年記念事業収入 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | |
| 事業活動収入計 | 7,065,000 | 7,240,000 | △ 175,000 | |
| 2.事業活動支出 | | | | |
| 1)会議費支出 | 2,145,000 | 2,763,000 | △ 618,000 | |
| (1)総会関連費 | 1,500,000 | 2,000,000 | △ 500,000 | |
| (2)役委員会関連費 | 645,000 | 763,000 | △ 118,000 | |
| ①役員会 | 100,000 | 120,000 | △ 20,000 | |
| ②役・委員会 | 200,000 | 300,000 | △ 100,000 | |
| ③編集委員会 | 140,000 | 120,000 | 20,000 | |
| ④準備委員会 | 40,000 | 60,000 | △ 20,000 | |
| ⑤研修委員会 | 50,000 | 60,000 | △ 10,000 | |
| ⑥役員推薦委員会 | 5,000 | 5,000 | 0 | |
| ⑦150年記念事業委員会 | 70,000 | 50,000 | 20,000 | |
| ⑧ホームページ委員会 | 40,000 | 48,000 | △ 8,000 | |
| 2)事業費支出 | 1,250,000 | 1,350,000 | △ 100,000 | |
| (1)研修会費 | 50,000 | 150,000 | △ 100,000 | |
| (2)会報発行費 | 1,200,000 | 1,200,000 | 0 | |
| 3)管理費支出 | 1,450,000 | 2,247,000 | △ 797,000 | |
| (1)人件費 | 1,000,000 | 1,047,000 | △ 47,000 | |
| (2)通信費 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| (3)消耗品等費 | 200,000 | 300,000 | △ 100,000 | |
| (4)ホームページ業務委託費 | 50,000 | 700,000 | △ 650,000 | |
| (5)雑費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 4)卒業記念費支出 | 120,000 | 110,000 | 10,000 | |
| 5)慶應義塾創立150年記念事業支出 | 2,000,000 | 670,000 | 1,330,000 | |
| (1)リカちゃん人形等管理料 | 200,000 | 670,000 | | 人形等保管倉庫費+宅配代行費 |
| (2)記念事業への寄付 | 1,800,000 | 0 | | |
| 6)予備費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 事業活動支出計 | 7,065,000 | 7,240,000 | △ 175,000 | |

11年間の看護部長職を大過なく終え、無事卒業できた気分です。2010年3月末日をもちまして選任定年退職をしました。退職から半年が経過しております。遅ればせながら在職中の紅梅会の皆様のご支援・ご厚情に心から感謝申し上げます。

新年度から新病院建設計画をはじめ改革のアイデアを実行に移す時期に入っています。新しいことを構想するにはフレッシュな風が必要と考え退職を決めました。「守・破・離」、旧きを破って新しいものに挑戦していく精神・実行力を必要としています。

振り返ってみますと精いっぱい働くことができ、「感謝と満足」の2つの言葉で総括しています。慶應看護の特徴は時代の要請や看護の発展と合わせて、その時にもっとも適切と考えられるものに取り組んでいることです。現場ではそれらに対応できる人材育成として看護教育に力を注いでいます。取り組みについては細かく掲載できませんが一部は春の紅梅会で鎮目看護部長は「看護職キャリアシステム構築」のパンフレットで紹介しております。看護医療学部創設に関わることができたことは得がたい経験となりました。学部卒業の一回生から看護師として受け入れ、看護師の成長をみていますが看護教育の確かさに慶應看護の将来に安堵しています。病院システムの不完全さで人手を多く必要とし、また安全面への緊張を強いる職場環境の改革には尽くせませんでした。医療政策を見据えながら先取りした取り組みを心がけましたが、昨今は示される経営目標数値が何事にも優先されデータで取り組みの是非が決定されます。経費を要し財源のめどが立たないものは困難がともない、看護部長の裁量のなさや非力さを痛感すること度々でしたが看護管理職の協力と知恵を結集して乗り切れたと考えています。

病院ならびに看護部は新体制で活動していますのでこれからも末永くご支援をお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

受賞 石橋湛山新人賞 短6回生 水口由美さん

水口由美（短6回生）さんが平成21年度「石橋湛山新人賞」を受賞しました。受賞論文は慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修士課程で取り組んだ「社会的入院に関する総合的レビューとその要因モデルの構築」です。表彰式では「確かなフィールドワーク」「修士課程の水準を超えた論文」「将来が期待できる」「空理空論ではない実学として展開」などと賞賛されていました。

石橋湛山記念財団は故石橋湛山の業績や氏の哲学・思想体系の継承発展と公正妥当な言論の育成・発展に貢献することを目的に昭和48年に設立されました。財団の事業として昭和55年に若手研究者の育成を目指して「石橋湛山賞」が、そして昨年、新たに「石橋湛山新人賞」が創設されました。本人の達成感は当然ですが、優秀な看護師を輩出していることは大きな喜びと誇りをおぼえます。

なお、水口さんの指導教授・印南一路氏は著書「社会的入院の研究—高齢者医療最大の病理にいかに対処すべきか」東洋経済新報社を出版しています。著書には水口さんの文献レビューが入っていますので医療政策に興味のある方はご参考に！

注：石橋湛山は、戦前・戦中、東洋経済新報社の主幹・社長として日本の政治・経済・外交などに論陣を張り、戦後は第一次吉田内閣の大蔵大臣を皮切りに政界へ進出し、戦後経済の再建に尽力しました。1956年第2代自由民主党総裁、第55代内閣総理大臣に就任しましたが、2カ月で病気のため退陣。首相辞任後は「日中米ソ平和同盟」の実現に努力しました。

(紹介者 66回生 木村チヅ子)

レーザー治療専門
8万症例以上の実績の安心と安全



日本橋



レーザークリニック

治療項目… ■医療レーザー脱毛 ■アザのレーザー治療
■シミ、ソバカス ■しわ、タルミ …その他

院長 藤井 俊史

慶應義塾大学医学部卒業
日本形成外科学会認定専門医


看護師 藤井 由美 (旧姓・荒井)
慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院 第88回生

診療時間：10:00～19:00 休診日：木、日、祝日
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8-14 新洋ビル2F

Access → ■東西線・銀座線・浅草線【日本橋】駅 徒歩2分
■JR線・東京メトロ丸の内線【東京】駅 徒歩7分

完全予約制

Tel.03-5255-5520
www.nihonbashi-f-laser.com/

| 西暦 (年) | 主な出来事 | 看護のあゆみ | |
|-----------|------------------------|---|----------------|
| 一八五八 | 開塾・福沢諭吉により蘭学塾を開く |  <p>慶應看護の90年</p> | |
| 一八六八 | 塾を「慶應義塾」と命名、近代私学として新発足 | | |
| 一八七二 | 三田に移転 | | |
| 一八九〇 | 大学部発足・私立として最初の総合大学となる | | |
| 一九〇一 | 創立者福沢諭吉先生死去 | | |
| 一九一七 | 医学科予科の授業開始 | | |
| 一九一八 | | | 医学科附属看護婦養成所の開設 |
| 一九二〇 | 大学令による大学として新発足 | | 産婆養成所開設 |
| 一九三二 | | | 紅梅会発足 |
| 一九三四 | | | |
| 一九四一 | 新塾歌制定 | | |
| 一九四四 | 工学部増設 | 医学部附属看護婦産婆養成所と改称 | |
| 一九四五 | 焼失 四谷医学部空襲により | | |
| 一九五〇 | | 慶應医学部附属厚生女子学院と改称 | |
| 一九五一 | 慶應義塾が学校法人となる | | |
| 一九五二 | 新制大学医学部発足 | 医学部附属看護婦学院設置 | |
| 一九五四 | | | |
| 一九五七 | 商学部増設 | | |
| 一九六〇 | | 医学部附属看護婦学院廃止。准看護婦の進学コースとして別科課程設置 | |

最後の厚女生

89回生 箕輪 和子 (旧姓 真野)

タイトルにした通り、私たちは最後の厚女生でした。「思い出を原稿にしてほしい」と頼まれたものの、決して真面目な生徒ではなかったので恐縮ですが、思いつくままに書いてみたいと思います。

思い出その1… 校舎がない。翌年の短大設立に向け、私たちが入学したときには既に校舎がありませんでした。授業は医学部の校舎を借りて行っていたため、毎時限教室が変わりました。ぶ厚い教科書を抱えて授業毎に場所を移動する面倒臭さ！ 2年生時に短大ができ、その校舎で授業ができるようになった時には本当に落ち着いた気がしたものでした。私は通学していましたが、寮の食事でも入学して間もなくなくなるなど、寮生はさらに苦労していたようです。

思い出その2… 実習のキツさ。看護師を志すものなら避けて通れない臨床実習。今よりも即戦力を求められていたせい（あるいは私が不真面目な生徒だったせい）実習は本当にハードでした。先輩から代々引き継がれる「How to ○○」という実習対策の冊子を頼りにしていたものです。3年生後半では卒論と国家試験の勉強と夜勤のある実習、よく乗り切ったものだと思います。



▲筆者は2列目中央

思い出その3… 慶應ならではの、ことある毎に歌われる「若き血」や声を張り上げて応援した早慶戦など、慶應ならではの学生生活も楽しむことができました。今は他の私大病院に勤務していますが、やはり慶應ほどの結束は感じられません。

ところで先日、89回生初、20年振りの同窓会がありました。みんな変わってなくて、何らかの形で看護師を続けている同期を頼もしく感じました。このつながりを今後も大事にしていきたいと実感しています。



今回は 1988 年～2001 年頃の慶應看護教育に関連した内容です。
 次回はいよいよ最終回です。看護医療学部開設から現在までの内容を特集します。

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|----------|--|--|---------------------------------|--------|--------------------|---------|--------------------------------|----------------|-------------------|----------|--------------|---------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 一九七二 | 一九七四 | 一九七六 | 一九七七 | 一九七八 | 一九八一 | 一九八三 | 一九八七 | 一九八八 | 一九九〇 | 一九九二 | 二〇〇一 | 二〇〇三 | 二〇〇四 | 二〇〇五 | 二〇〇七 | 二〇〇八 |
| | 伊勢慶應病院開院 | | 月ヶ瀬リハビリセンター 開設 | | 理工学部新設 | 慶應義塾創立125年 記念式典 | 大病院新棟開院 | | ニューヨーク学院 開校 | 湘南藤沢中等部・ 高等部開校 | | | 法科大学院開設 | | | 創立150年記念式典挙行 共立薬科大学との合併 |
| 大学病院附属高等看護学院 (准看護婦の夜間進学コース) 設置 | | 大学病院附属高等看護学院廃 止、厚生女子学院に合併し厚 生女子学院に二部課程設置 | 厚生女子学院が専修学校となる (本科・進学科一部・ 進学科二部) | 厚生女子学院60周年記念式典 厚生女子学院進学科一部廃止 | | 厚生女子学院進学科二部廃止 | | 慶應義塾看護短期大学開校 新校舎竣工→移転(現孝養舎) | 厚生女子学院廃止 | | 看護医療学部開設 | 慶應義塾看護短期大学閉校 | | 大学院健康マネジメント 研究科(修士課程)開設 | 大学院健康マネジメント 研究科(博士課程)開設 | |
| 今号特集 | | | | | | | | | | | | | | | | |

短大時代の思い出

短9回生 安田 真由美 (旧姓 宮崎)



先日ふと慶應キャンパスを訪れてみると、私が学んだ頃の学生ホールや、鳥かごと呼ばれていたグラウンドは無くなっており、新研究棟という立派な建物ができていました。11年の歳月の長さを実感すると共に、昔の思い出が懐かしく頭をよぎりました。

短大時代、私は剣道部に所属していました。剣道部の練習は厳しく、今でも思い出すのが、「恐怖の千本素振り」です。跳躍しながらの素振りは想像以上に苦しく、心臓が破裂しそうになりながら、重い木刀を降り続けました。でも苦しい練習を一緒に乗り越えたからこそ仲間との絆が深まり、そんな仲間達と一緒に合宿や旅行は最高の思い出となりました。また、文化系では公衆衛生学研究会にも所属していました。「みや、北海道に行きたくない？」の一言によって、不純な動機で入った研究会ですが、無医村の実態調査など、大変勉強にもなりました。それに、講義後部屋に入り浸って、部員の先輩・後輩と他愛もない話に興じ、楽しい時間を過ごしたことも良い思い出です。この2つの部に所属していたおかげでとても楽しい大学生活を送れたと共に、慶應病院に就職した後も多くの先輩、後輩に助けをもらいながら楽しく仕事が出来ました。

学業の面で思い出すのはなんと言っても3年時の臨床実習です。実習は大変で、厳しい先輩に怒られて心が折れることもしばしばでした。そんなときは、「へこみプリン」と称したプリンを実習班のメンバーで食べて慰め合ったものです。当時はどうしてこんな事をしないといけないのだろうと思うこともありましたが、実際に仕事をするようになってみると、この時学んだことが如何に大切なことだったかを身にしみて実感するようになりました。当時は厳しいと思った先輩達にも今は感謝しています。

先日紅梅会の総会に出席し、自分が臨床でお世話になった先輩方にもお会いすることができ、懐かしさと同時に身の引き締まる気持ちになりました。また多くの同級生とも再会しましたが、みんな様々な分野で活躍している様子で、看護大学の講師をしている人、専門ナースや認定看護師の資格を習得した人、慶應病院で働き続けている人などなどいろいろと面白い話を聞けました。私自身は、今現在子育て中でもあり地元の病院で働いていますが、同期の人達の志の高さにとっても刺激を受けました。

慶應病院を離れてからは信濃町を訪れる事も少なくなりましたが、私たちの思い出が一杯詰まった信濃町キャンパスが、今後とも素晴らしい発展を遂げるべく、一卒業生として見守ってゆけたらと思っています。

今回は、各分野で働くスペシャリストの方々をご紹介します。高度化、専門分化が進む医療の現場では、看護ケアの広がり看護の質の向上を目的とする、スペシャリストの養成の場も広がっています。専門性を高めるために臨床で培った知識、技術を生かし、さらに患者やその家族に対するコミュニケーション力など、多彩な能力を発揮しつつ、日々研鑽されている会員の方々に、活動内容についてご執筆いただきました。この会報を通じて、専門分野に興味を抱き、キャリア向上を目指したいと考える後進の方がひとりでも多くいらっしゃれば、私共編集者冥利に付きるところです。また、ご多忙中にも拘らず、快くご執筆をお受けくださった皆様、編集者一同心よりお礼申し上げます。(編集委員 上野八重子)

リンパ浮腫ケアー QOL 向上のためにセルフケアを支援

89 回生 川北 智子

私がリンパ浮腫ケアに興味をもち学び始めたのは10年前。がん性疼痛認定看護師としてがん患者の疼痛ケアに取り組む中で、リンパ浮腫を併発し薬物を使用しても苦痛を緩和し切れなかった事例との出会いがきっかけでした。当時は今ほど注目されている領域ではなかったため、独学での学習には限界を感じていた所、偶然知人からリンパドレナージセラピスト養成講習があることを聞き、早速受講しセラピストとなりました。しかしその後臨床の場で技術を活かすことができず、技術の維持に不安を感じているとリンパ浮腫専門のクリニックを紹介され、3年前からそこで看護業務に従事しています。

クリニックには全国からリンパ浮腫に悩む方々が来院されます。がんの手術によるリンパ節郭清が原因のケースばかりでなく、先天性のリンパ障害やリウマチ性疾患によるもの、外傷性やリンパ節転移によるリンパ浮腫の方などが通院されています。肉眼的には左右差がわからない程度の術後間も軽症の方から、片足が健側の倍以上の太さになり、10年以上冬でも下駄しか履けず経過していた方など重症度も様々です。

そこでの看護師としての役割は、リンパドレナージとセルフケア指導。初回はセルフリンパドレナージや弾性着衣の着脱や炎症に関する指導を行い、2回目以降は下肢は60分間、上肢は40分間リンパドレナージを行っています。施術中はセルフドレナージの実施や弾性着衣の装着状況の確認、日常生活上のストレス、ケア継続の意欲の変化など情報収集を行います。得た情報を元に現状の身体・精神状況にあった実施可能な方法を共に考え、セルフケアの継続が図れるように導いていきます。

大半ががん患者であるため、抗がん剤治療や疼痛ケアと平行してリンパ浮腫ケアを受ける例も少なくありません。がん性疼痛認定看護師、リンパドレナージセラピストの知識、技術、更にこれまでの臨床経験を活かしてがん患者のセルフケアを支援する現在の役割には非常にやりがいを感じています。また関わりの中で患者の思考が、病気と付き合いながらできる範囲で自身の生活も充実させていこうと変化し、具体策を求めてくるようになることは、喜びでもあり達成感にも繋がっています。

今後もより多くのリンパ浮腫患者のQOL向上のために、セルフケアを支援していけるような役割を果たしていきたいと考えています。



社会福祉法人 賛育会 賛育会病院

病院見学
受付中

看護師 募集中

慶應義塾大学
卒業生活躍中!!

地域密着の総合病院で、一人ひとりの患者さまに向き合う看護を実践していきましょう。認定看護師、管理職経験者も大歓迎です。

詳しくはWEBで **賛育会病院**

東京都墨田区太平3-20-2 (錦糸町駅より徒歩8分)

TEL 03-3622-9192 総務・人事課 直通

E-Mail s-jinji@san-ikukai.or.jp



副院長 兼 看護部長
63回生 武田美代子

豊富なメニューで、くつろぎのひと時を…

パン、サンドイッチ、お弁当、カフェ、レストラン・メニューなどいろいろと取り揃えております。毎月の新製品や季節限定のパン、シェフの自慢のメニューを、店内 または、テイクアウトでもご利用いただけます。是非一度、お立ち寄りください。



座 録 慶応病院内 B1
赤村 本 03-3358-9822
(メニューにより配達承り中)

ハッシュドビーフ&オムライス
人気メニュー 税込 ¥1,260

国際的な合意に基づいて定められた基準、GCP (Good Clinical Practice : 医薬品の臨床試験の実施の基準) を遵守して治験が円滑に実施できるように、日本では1998年にCRCという職種が誕生しました。当初は治験を支援してきましたが、2007年の「新たな治験活性化5ヵ年計画」(文部科学省・厚生労働省策定)において、CRCは臨床研究コーディネーターと定義され、現在は臨床試験を含めた臨床研究全般を対象に支援しています。

ヘルシンキ宣言やGCP、臨床研究に関する倫理指針等、臨床試験を行なう際に適用される規制要件や指針に則り、臨床試験の対象となる患者の人権と安全への配慮を第一優先としながら、試験が実施計画書にしたがって適正かつ円滑に遂行されるように支援するとともに、研究者(医師)と治験依頼者(スポンサー)と被験者(患者)の三者の間に入って、全体を調整(コーディネート)することがCRCの役割になります。その業務は、インフォームドコンセントの補助、被験者教育・相談・観察などの被験者ケア、試験スケジュールの調整・管理、院内の関連部署および外部機関との連絡調整、症例報告書の作成支援、治験に関連した書類や情報の管理、モニタリング・監査への対応、治験依頼者や規制当局との対応等です。

私は慶應義塾大学病院の看護師として12年の臨床経験の後、治験管理センターに異動し、この職務に就いています。最近では、世界規模での開発・承認を目指した国際共同治験・共同研究にも関わり、日本や世界の医療動向について身近に感じ、医療における臨床研究の重要性を再認識するとともに、専門職としてのCRCの役割と責任を自覚し、さらなるステップアップをしていきたいと思っています。

最後に、CRCの仕事に対する認知度が未だ低い現状において、この会報を通じて、CRCの仕事を知っていただけたら幸いに思います。

(治験部門の再編があり、現在は9月1日に開設された免疫統括センターで勤務されています。)

デバイスと共に歩む患者さんのケア



近年、ペースメーカーに加え、植え込み型除細動器(ICD)や両室ペースング機能付き植え込み型除細動器(CRT-D)といったデバイスが不整脈の患者さんに植え込まれています。デバイス植え込み手術を受けた患者さんは、携帯電話や盗難防止装置などの電磁干渉の影響やリードの断線への不安、デバイス植込み部位の違和感など様々な要因から、日常生活動作や範囲を必要以上に制限することがあります。特に、ICDやCRT-Dの患者さんは、衝撃の強いショック作動の苦痛等から抑うつや自殺企図に至ることなども報告されており、植え込み後の継続的なメンタルサポートを要します。また、就労している患者さんの場合、仕事の内容に制限が生じ職を失うこともあり、デバイス植込みにより人生が一転することもあります。患者さんがデバイスと共に人生を歩むために、術前から身体的、精神的、社会的なサポートが必要です。そのためには患者さん一人一人のニーズに合わせたケアが欠かせません。

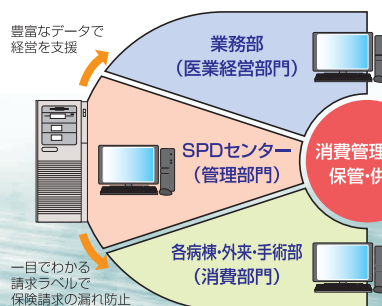
欧米ではデバイス患者さんを専門にケアするデバイスナースという資格がありますが日本では資格はなく、施設によっては専門的かつ継続的なケアが困難なこともあります。そして、患者さんらが患者の会を設立し、お互いの経験などを話しながら助け合っているのが現状です。そこで私は医学部循環器内科に所属し、循環器病棟で得た経験や知識を生かし、精神科医や海外のデバイスナースの協力を得ながらデバイス患者さんのケアに携わっています。デバイスと共に歩む患者さんのQOL向上のためにこれからもケアを継続し、また、日本でもより多くの患者さんをサポートしていけるような啓蒙を続けていきたいと思っています。

院内の「物流と情報の一元化」で効率経営をトータルサポート



SPDシステム
Logicare - SKY
ロジケア スカイ

販売元
アルフレッサ メディカルサービス株式会社
〒130-0024 東京都墨田区菊川2-23-12
TEL.03-3635-7360 FAX.03-5625-1375
<http://www.alfresa-ms.co.jp>



院内物品の一元化

診療現場の原価意識向上

- 各種管理、分析データ出力による経営戦略のお手伝い
- 病院在庫の適正化とデッドストックの発生防止
- 病院職員が本来業務に専念できる環境整備が可能

萬年 由佳



私は4月から慶應義塾大学病院の中央手術部に配属され、働いています。手術室で病棟と大きく違うのは患者さんが全身麻酔で眠っていて、手術が始まればコミュニケーションがとれなくなってしまうことです。だからこそ、患者さんが安全に手術を終え、病棟に戻れるためには、どのような看護が必要かを考えていかなければならないと思います。

はじめての手術ではとても緊張してしましますが、侵襲の大きな手術が少しでも早く終わるように私たち看護師は手術に携わっていかねばなりません。1年目はわからないことのほうが多いけれど、先輩にご指導頂きながら、患者さんのためにより良い看護を提供できるように成長していきたいと思っています。

倉島 悠子

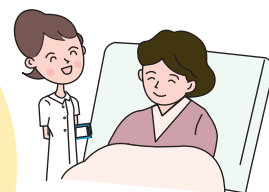


私は、4月から慶應義塾大学病院の消化器内科で働いています。学生時代から実習に行っていた病院なので、病棟の環境に慣れることは難しくありませんでしたが、社会人として働くことの大変さを身にしみて感じています。初めての検査・処置、薬など日々、勉強していくことが山積みです。また、業務に追われてしまい、一人一人の患者さんときちんと向き合えていないのではないかと感じることもあります。そんな時、患者さんの笑顔やちょっとした言葉に元気をもらい、また頑張ろうと思えます。まだまだできることは限られていますが、先輩のサポートを受けながら一步一步成長していきたいです。

百瀬 香



私は、慶應義塾大学病院の心臓血管外科・呼吸器外科病棟で働いています。急性期実習で、毎日変化する患者さんのニーズを把握し看護を提供する点に魅力を感じ、外科を志望しました。実際に働いて感じるのとは、一人一人の患者さんのニーズを的確に捉えることの難しさです。実習では一人の患者さんを受け持ち、時間をかけて看護過程を展開しましたが、今は毎日複数の患者さんを受け持っています。その中でもニーズをきちんと捉え、患者さん一人一人にとってよりよい看護とは何かを考え、提供できるよう努力していきます。まだわからない事の方が多いですが、先輩方に指導していただきながら、看護師として更に成長していけるよう、頑張っていきたいと思っています。



笠井 悠矢



私は、今年の4月より、新潟県三条保健所の保健師として入職しました。勤務して3ヶ月しか経っていない中、先輩・上司に支えられながら、日常業務に取り組んでいます。新しく経験することばかりで、困惑することも多いですが、同時に、家庭訪問や健康診断などの保健師の活動に触れて、学ぶことの多い、密度の濃い時間を送っています。

私は、主に結核・エイズ業務に取り組んでおり、今はまだ、目の前の仕事をひとつひとつ消化する日々ですが、今後は、仕事に対して目的意識をもって取り組んでいこうと思っています。

保健師は、たくさんの人と関わることができる仕事だと思っているので、関わっていく人から多くのことを吸収していきたいと考えています。

八代 ひか理



私は板橋区の健康福祉センターで保健師として働いています。地区を担当しており、1万3千人の住民を受け持っています。地区担当の他に、事業も母子から成人まで関わっています。乳幼児健診や新生児訪問で赤ちゃんや子供たちに癒される日もあれば、虐待ケースに悩まされる日もあります。精神疾患を持った方が落ち着いて作業所に行っている姿を見てほっとする日もあれば、近隣苦情になってしまう未受診の方の対応に困ることもあります。様々なケースと関わりながら保健師は住民の生活を支える仕事だと実感しています。住民の方と積極的に関わり、保健師として成長していきたいと思っています。

第33回 紅梅会研修会のお知らせ

テーマ： 生きることへのまなざし
～病気と共に生きるためのセルフマネジメント～

講師： 聖隷クリフター大学看護学部 教授
前慶應義塾大学看護医療学部 教授・学部長
山下 香枝子 先生

日時 平成22年11月12日(金曜日) 18時～19時30分
(開場は17時30分となります)

場所 信濃町キャンパス 孝養舎 2階 202教室

研修会費 無料

紅梅会同窓生のみなさま、ご健勝にお過ごしのことと存じます。

21世紀のケアは、病む人にも、それを支える人々にも「共存」の考え方が必要といわれております。お互いに支え合いながら、毎日を快適に過ごしたいと願っております。そして、それぞれが心安らかに自分らしく生きるためには、どうしたら良いのかということについていつも探し求めております。

今年度の紅梅会研修会は、講師に聖隷クリフター大学看護学部 教授であり、前慶應義塾大学看護医療学部 教授・学部長の山下香枝子先生をお招き致しました。

講師の山下香枝子先生から、病と向き合っていく時に、どのように考えて療養生活を過ごすかについて、『病むとはどういうことなのか、病の意味、病とともに生活するにはどのように療養生活をマネージしたらよいのか、ナースは患者さんをどのような視点で支援していった方がよいのか』などの内容でご講演を頂きます。

会員のみならず、またお知り合いの方や職場の方々をお誘いいただき、大勢のみならずのご参加をお待ちしております。
(53回生 研修委員会委員長 門田 美恵子)

第2回 看護ホームカミングデイ開催のお知らせ ～卒業生と学生の交流会～

看護医療学部卒業生の先輩方へ

看護医療学部で4年間学ぶ中で、私たちは「自分は本当に看護師になりたいのだろうか…」「看護の力を使って他のフィールドで何かできることはないだろうか…」「自分は何を目指すべきなんだろうか…」など、将来の進路の選択、キャリアアップに対して不安をもっています。こんな悩みを学生で話している時、「さまざまなフィールドで活躍されている先輩方がいる！」ことに気がきました。

そこで今回、「先輩の経験を聞き、自分たちの将来を考える手がかりにできる」発展的交流を目的に、看護医療学部卒業生(1期生～6期生)と現在の学生が集まる「看護ホームカミングデイ」を下記のように企画いたしました。学部卒業の先輩！是非参加してください！私たち在校生は待っています！

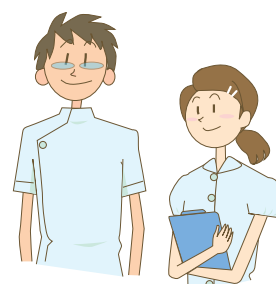
記

開催日： 平成22年12月11日 土曜日 13:00～16:00

場所： 湘南藤沢キャンパス

詳細については、i07199sy@sfc.keio.ac.jp (山城 慧) までご連絡ください。

交流企画団体代表：慶應義塾大学看護医療学部4年生 山城 慧



平成22年度紅梅会役員・委員

| | | | | | | |
|-------|--------------|------------|--------------|--------------|----------------|-------------|
| 会 長 | 藤村 龍子 (49)※ | 研 修 | 松本 千尋 (学5)※ | 役員推薦 | 東城 玲子 (54)※ | |
| 副 会 長 | 茶園 美香 (66) | 編 集 | ◎内田 智栄 (短4) | | 宮崎 敬子 (短1)※ | |
| 書 記 | 山岸 直子 (短1) | | 上野八重子 (85) | ホームページ | ◎田中 喜子 (学1) | |
| | 瀬戸美奈子 (短1) | | 山口 伸子 (86)※ | | 小野伊久美 (学1) | |
| | 宗廣 妙子 (短1)※ | | 渡邊 珠子 (87) | | 鈴木 百合 (学3) | |
| 会 計 | 三須久美子 (短3) | | 馬養真奈実 (短6)※ | | 佐藤 絵理 (学5)※ | |
| | 仲亀 聖子 (88)※ | | 石坂 和代 (短11)※ | | 山本 望美 (学5)※ | |
| 会計監査 | 永留 利恵 (短4) | | 山倉 彩乃 (学4)※ | 鈴木 理央 (学5)※ | | |
| | 米倉 敦子 (39)※ | | 南 繭子 (学4)※ | ◎三上 れつ (60) | | |
| 研 修 | ◎門田美恵子 (53)※ | | 準 備 | ◎江河 都美 (84)※ | 150年記念 事業支援 | 浅野 美春 (60) |
| | 水口 由美 (学3)※ | | | 武野 宏子 (短4)※ | 紅梅会事務 | 久保田みつ子 (60) |
| | 富田亜沙子 (学4) | 森 理乃 (学2) | | 加園 茂子 (60) | | |
| | 栗田あさみ (学4) | 今福 麻美 (学3) | | 浅田 頼子 (68) | | |
| | 川村 崇郎 (学4)※ | 役員推薦 | | ◎村松左知子 (84) | | |

() : 卒業回生 ◎ : 委員長 ※ : 新役員・委員

紅梅会事務局より

◆「特選塾員推薦」受け付けについて

平成13年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生の方も、特選塾員となることができるようになりました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。具体的には、

- ① 評議員選挙権の取得
- ② 慶應義塾大学図書館の利用
- ③ 慶應カード入会可能
- ④ 慶應オンラインの利用可能
- ⑤ 慶應維持会（慶應義塾に寄付した人の会）入会

などがあります。紅梅会会長推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は下記の内容を明記して、紅梅会事務局までハガキまたはファックスでお送り下さい。今回申し込みをされた方は、3月末に推薦書を塾監局に送付しますので、5月末頃の決定通知となります。なお不明なことは事務局までお問い合わせください。

◆連絡先変更時のお願い

ご住所等に変更があった場合は、お手数ですが、必ず事務局までご一報下さい。終身会費をお納め頂いても返送され、会報をお届けすることができません。また、年会費を二年間滞納されますと会報発送を中止させて頂いておりますので、お忘れなくお払い込み下さいますようお願い申し上げます。また、学部卒業生の方で終身会費未納のままで2年経過しますと、同様に会報発送を中止しておりますので、是非会費の納入をお願いいたします。

事務局は原則として下記の日時に開けておりますが、諸事情により不在のこともございますので、あらかじめご了承下さい。なお、不在の場合は留守番電話に、回生、お名前、用件をお残しください。折り返しご連絡いたします。

浅田 頼子 (68回生)

事務局

在室時間

月・木曜日 11時～17時

直通電話・FAX : 03-3341-8116 (内線 62043)

計 報

| | | | |
|------------------|-------------|------------------|------------|
| 14回生 大橋よしの(旧姓畠山) | 平成22年3月25日 | 28回生 鈴木トシ子(旧姓大西) | 平成22年2月17日 |
| 17回生 青田与志子(旧姓村上) | 平成22年8月18日 | 28回生 杉田よし子(旧姓田中) | 平成22年3月28日 |
| 19回生 谷田貝 クニ | 平成21年11月27日 | 28回生 岩崎久美子(旧姓高橋) | 平成22年8月11日 |
| 22回生、助20回生 | | 32回生 佐藤 精子(旧姓佐藤) | 平成22年4月13日 |
| 石島 カウ(旧姓半田) | 平成20年9月6日 | 48回生 今井 澄子(旧姓高久) | 平成22年8月10日 |
| 26回生 丸 つね(旧姓藤平) | 平成22年4月21日 | 65回生 好岡 活江 | 平成22年2月6日 |

編 集 後 記

例年にない暑さに見舞われた夏でしたが、会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。5月に開催されました紅梅会総会に多くの方が参加して下さり盛大な会となりました。その模様を当日参加されなかった皆様方にお伝えしたいと思い、例年より多く総会に関連した記事を掲載させていただきました。90号より特集してきました「慶應看護の歩み」も次号が最終回となります。総会同様、会報も会員の方々の架け橋となるよう、これからも取り組んでまいります。どうぞ皆さまのご意見、ご要望をお寄せください。編集委員 内田 智栄